

山岡鐵舟 やまおか てつしゆ 舊幕臣。天保七年六月十日江戸生れ、明治二十一年

七月十九日歿（八六一六）。舊姓小野、諱高步、字猛虎・晴野、通稱

鐵太郎。別號一樂齋、藤原高步等。安政二年槍術の師山岡家へ入婿、

翌年講武所劍術世話役、文久二年新徴組取締役。慶應四年駿府へ由郷

隆盛へ面談、江戸城開城へ貢獻した。維新後新政府へ出仕、天皇侍

從、のち宮内少輔、元老院議員等歴任。子爵。高橋泥舟の義弟。

著書『明治山岡先生與由郷氏應接筆記』（明治十五年八月、二十日大森

方網編輯出版）、『戊辰解難録―山岡鐵舟先生與由郷隆盛及上野覺王

院上人應接之記』（金田清左衛門編、明治十七年八月金清堂）、『鐵

舟隨筆』（勝海舟評論・安部正人編、明治二十六年七月十六日光融

館）、『武士道』（同、昭和十二年十一月一日大東出版社）、『禪と

武士道―山岡鐵舟遺稿より』（桂樹亮仙編、昭和十四年十一月五日鳥

根・祈月書院）、『鐵舟隨感録』（勝海舟評論・安部正人編、昭和十

七年九月、二十日秋田屋書房）等。

文獻、荻野獨園著『山岡鐵舟居士傳』（明治二十一年九月、二十日京

都・荻野獨園刊）、佐倉孫二著『山岡鐵舟傳』（明治二十六年五月十

六日普及舎）、安部正人著『鐵舟海舟二舟秘訣』（明治二十六年七月一日

有斐閣雜誌店）、同編『鐵舟言行録』（明治四十年十一月一日光融館。

再刊。昭和九年八月吉野小一郎複製）、高橋淡水著『百録海舟と鐵舟』

（大正十年八月十日下村書房）、頭山滿述『幕末

二舟傳』（武劉生編、昭和五年五月一日大日本雄

辯會講談社）、百川元著『山岡鐵舟論語』（昭和



十五年十月十五日教材社）、圓山牧田原編『山岡鐵舟居士言行録』（昭

和十六年八月十日小島甚吉・小島正三郎
松澤菊太郎・田澤淺吉中施主、小倉鐵樹談『山岡鐵
舟』語り』(内題「おれが
匠山岡鐵舟を語る」石津 寛
牛山榮治手記、昭和十七
年四月、二百頁井田書店)、源田重久著『子育鐵舟』(昭和十七年八月
十五日、シンレット文藝社)、品川連山著『海舟と鐵舟』(昭和十七
年十月、二十八日天祐書房)、江馬修著『若き日の山岡鐵舟』(昭和十
八年八月十日東京榮堂)、澤田謙著『山岡鐵舟』(昭和十九年十一月十
日八雲出版部)、岩崎榮著『山岡鐵舟』(孤忠の巻・昭和二十年八月
二十日、母の巻・十一月十日開成館)、勝部真長編『山岡鐵舟の武士
道』(平成十一年九月、二百五十頁角川書店「角川ソノイタ文庫」)等。